

# Ex34 (2023/05/16)

- 100人の誕生日データ（1月1日を1とし、12月31日を365とする）を入力する配列を宣言する
- 配列の要素は、乱数によって発生した1～365のいずれかの値とする
- 配列から誕生日を逐次検索し、2人以上の人がいる誕生日を見つけて、それらの誕生日（1～365）とそれぞれ的人数を出力するプログラムを作成せよ。
- 余裕があれば誕生日を＊月＊日の書式で出力せよ

実行結果例

日数133, 3人
日数168, 2人
日数176, 2人
日数215, 2人
日数251, 2人
日数255, 2人
日数258, 2人
日数303, 2人
日数316, 2人

実行結果例2

日数133, 5月 13日, 3人
日数168, 6月 17日, 2人
日数176, 6月 25日, 2人
日数215, 8月 3日, 2人
日数251, 9月 8日, 2人
日数255, 9月 12日, 2人
日数258, 9月 15日, 2人
日数303, 10月 30日, 2人
日数316, 11月 12日, 2人

# Ex35 (2023/05/16)

- 下記の100個の要素からなる配列に対して、0から127までの整数をそれぞれ探索のキーとして128回の2分探索を行い、各キーの配列における位置、各キーを見つけるまでの探索回数、128回の探索の平均探索回数を出力するプログラムを作成せよ

```
int data[100] = {  
    0, 1, 2, 4, 5, 6, 7, 9, 10, 12, 13, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21,  
    23, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 33, 34, 35, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 44, 46,  
    47, 48, 49, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 59, 60, 61, 63, 64, 65, 67, 68,  
    71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 83, 84, 85, 86, 87, 89, 90, 91,  
    92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 101, 102, 104, 105, 107, 108, 110,  
    111, 112, 113, 114, 115, 117, 118, 119, 120, 123, 124, 125, 127};
```

実行結果例

```
key =    0, index =    0, count =    6  
key =    1, index =    1, count =    7  
key =    2, index =    2, count =    5  
key =    3 is not found, count =    6  
...  
Ave:*
```

# 課題の提出

- T2SCHOLAで課題番号ごとに以下のファイルを提出.
- Cのソースコードファイル. 関数定義が複数あっても, 一つの課題番号に対して一つのファイルとする.
- ファイル名:
  - 「<学籍番号>\_prog<講義日の日付>\_ex<課題番号>\_v1<バージョン, 最後のみ採用>.c」
  - 講義日の日付は4桁、課題番号は2桁
  - 例: 20B01234\_prog0416\_ex01\_v1.c
  - ~.c.c とはしない

# 課題の提出

- T2SCHOLAからの提出がうまくいかない場合は、  
上記ファイルの内容を担当教員にメールで提出
- 課題の提出期限は、次回講義の前日の3時まで
  - 火曜の課題は木曜、金曜の課題は次の月曜まで
  - それ以降もこの講義の最終レポートの締切日まで受け付ける

- 締切後の提出先



# 発表資料

- 各課題ごとに，事前に指名した1～2名にその回答をみんなに説明していただく．説明は次の回の最初に行う．
- その説明資料（スライド1枚程度）を前日の午後3時までにT2SCHOLAの説明資料専用のボックスに提出する．

